

九州保健福祉大学

平成 20 年度
健康管理センター活動報告書



九州保健福祉大学 健康管理センター

はじめに

従来、健康管理センターは学生相談業務のみを担当していましたが、平成 19 年度より保険業務を加えることにより、学生相談室と保健室の 2 室構成となり、学生の心身の健康問題に総合的に対処できるようになりました。この機構改変に伴い、平成 19 年度より九州保健福祉大学健康管理センター単独での活動報告書を発刊することになりました。「高梁学園健管だより」の長所を活かしつつ、より身近な本学学生の健康問題を取り上げていきたいと考えています。

本学の健康管理センターは、学生相談室と保健室が隣接しており、精神的ストレスが身体症状として発現するような事例にもスムーズに対応できる構成になっています。教員の先生方にはオフィス・アワーを設けていただきましたが、まだ学生には十分利用されておらず、当センターへ相談に訪れる多くの学生がいます。今後も、本学学生の健康管理に寄与していきたいと考えています。

感染症対策は、当センターとしても大きな課題のひとつです。昨年是在校生への麻疹抗体価の検査を行いました。世界中で新型インフルエンザ危機が叫ばれています。全世界の鳥類の間で毒性の強い鳥インフルエンザ(H5N1 型)が大流行を起こしています。今のところ、この鳥インフルエンザは簡単に人には感染しません。しかし、このウイルスは、人に感染しやすい形へと変異を続けています。鳥インフルエンザが人から人へ容易に感染するように変異した「新型インフルエンザ」の発生は、時間の問題だといわれています。そこで、新型インフルエンザの予防ならびに患者が発生した場合の対応を迅速に行うために、本学における新型インフルエンザ(H1N1)対策マニュアルを文部科学省行動計画をもとに策定していただきました。マニュアルは本冊子の巻末に掲載していますので、是非ご一読ください。

人間力やコミュニケーション技術の低い学生が増えてきました。正解のない成熟社会のなかで学生たちは悩んでいます。学生たちは多様化しています。学生のタイプも保護者の願いも非常に多様で複雑化した成熟社会における大学では、すべての学生に私たちだけで満足のいく対応を提供できるわけがありません。不規則な生活リズムや食生活のために、身体的な健康を損なう学生もいます。今後は、ヘルスプロモーション活動を推進することにより、学生自身の健康力を向上できればと考えています。

平成 21 年 4 月

九州保健福祉大学
健康管理センター長
園田 徹

目次

| | | |
|------|---------------------|---|
| I. | 組織構成ならびに構成員 | 1 |
| II. | 学生相談室の利用状況と今後の課題 | 2 |
| III. | 保健室の利用状況と今後の課題 | 5 |
| IV. | 学術発表と今後の研究の方向性 | 7 |
| V. | 附録 | |
| | 1. 新型インフルエンザ対応マニュアル | |
| | 2. 学内AED設置場所 | |

Ⅱ 学生相談室の利用状況と今後の課題

1. 学生相談室の利用状況

昨年度に比べると、利用実数、延べ数ともに大きく減少しているものの、延べ400名を超える学生が利用していた。また、時期で比較すると、昨年度に比べ、5月、夏期休業中の8・9月、後期後半の1・2月の利用者が少なかった(図1、表1)。学年別に見ると、全体では3年生が他学年に比べやや多いが、各学部で傾向が異なる(表2)。また、主訴別では昨年同様、①「健康」、②「適応」、③「修学」の順であった(図2)。これらをそれぞれの学部や学年のカリキュラムを通して見ると、学内実習中あるいは学外実習前の時期に、体調不良とともに心の不調を訴える学生が多い傾向がうかがえた。

2. 今後の課題

今年度は、利用者数が開室以来、最も少ない年となった。これは健康管理センターの体制の変化が大きく影響したと思われる。4月にスタッフ(週5日勤務・非常勤)が減ったのである。しかしながら、学内の各方面からの強い要請もあり、前期の終わる7月末には再び配置されることになった。この増員はこれまでの健康管理センターの活動を認めていただけたうれしい出来事であった。しかし、年度のスタート時に学生へ十分対応することができなかったため、その後の利用状況に大きく影響することになったと思われる。今後も多様な学生の対応のため、体制の充実が必要であろう。

また、学生の変化も見逃せない。一つには、本学では資格試験に合わせたカリキュラムであることもあり、年々、開室時間に合わせた面接時間を確保することが難しくなっていることがある。二つ目は、学生の利用の仕方の変化である。相談の予約をとるのではなく、自分の都合のよい時にふらっと訪れるタイプの学生が増えているようである。中には、予約をしておきながら、異なる時間に来室する学生も少なくない。10数年前から指摘されているが、自分の悩みを悩みとして抱えられない、悩みに向き合えない学生が増えてきたのであろうか。その代わりに、心の不調を体の不調として訴えているようなケースが増えてきているようである。これに対応するため、今年度から保健室との連携を強化したところである。最後に、継続面接を希望する学生の中に非常に深刻なケースが増えていることがある。医療機関に通いながら来室する場合もあるし、表面からは見えない深刻でデリケートな問題を抱えている場合もある。医療機関とも連携しつつ、かつ健康管理センターの役割を考えつつ、対応していく必要があるだろう。

(人)

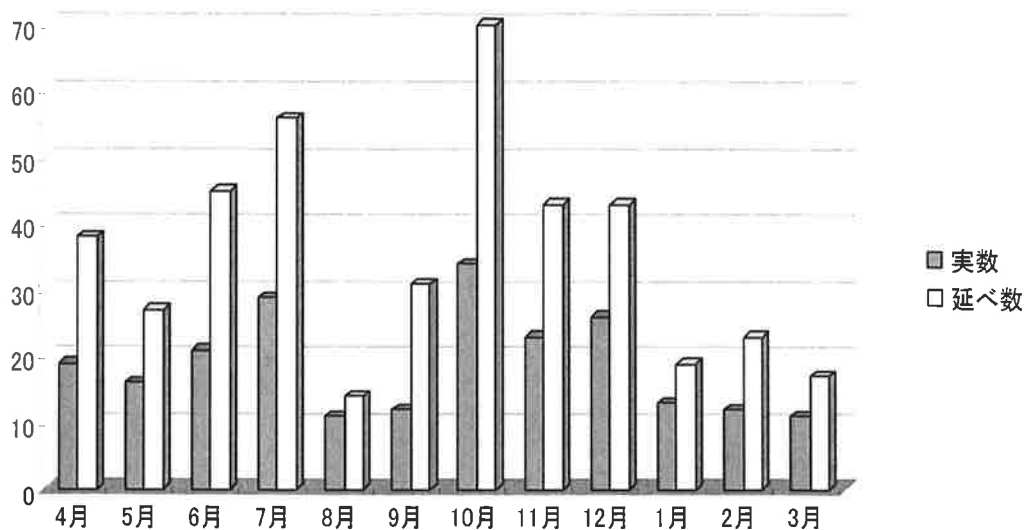


図1 月別来談状況

表1 月別来談状況

| 来談月 | | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 年間 |
|------|-----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|-----|
| 各月実数 | 学生 | 19 | 16 | 21 | 29 | 10 | 11 | 33 | 22 | 25 | 12 | 11 | 10 | 219 |
| | 教職員 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | その他 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 8 |
| | 合計 | 19 | 16 | 21 | 29 | 11 | 12 | 34 | 23 | 26 | 13 | 12 | 11 | 227 |
| 延べ数 | 学生 | 38 | 27 | 45 | 56 | 12 | 28 | 68 | 41 | 38 | 17 | 20 | 16 | 406 |
| | 教職員 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | その他 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 3 | 2 | 2 | 5 | 2 | 3 | 1 | 20 |
| | 合計 | 38 | 27 | 45 | 56 | 14 | 31 | 70 | 43 | 43 | 19 | 23 | 17 | 426 |

* 来談人員は(実数)はその年度内に来た人数とする。前年度からの継続者も実数に含める。

※その他は卒業生・科目等履習生・学生の保護者

表2 月別学部別来談状況

| | | | 1年次 | 2年次 | 3年次 | 4年次 | 通信・その他 | 合計 |
|----------|--------|---|-----|-----|-----|-----|--------|----|
| 来談人員(実数) | 社会福祉学部 | 男 | 0 | 3 | 1 | 4 | 0 | 8 |
| | | 女 | 4 | 0 | 2 | 1 | 0 | 7 |
| | 保健科学部 | 男 | 2 | 6 | 7 | 3 | 0 | 18 |
| | | 女 | 7 | 12 | 19 | 4 | 0 | 42 |
| | 薬学部 | 男 | 3 | 0 | 0 | 2 | 0 | 5 |
| | | 女 | 4 | 1 | 1 | 1 | 0 | 7 |
| | 合計 | 男 | 5 | 9 | 8 | 9 | 1 | 32 |
| | | 女 | 15 | 13 | 22 | 6 | 0 | 56 |

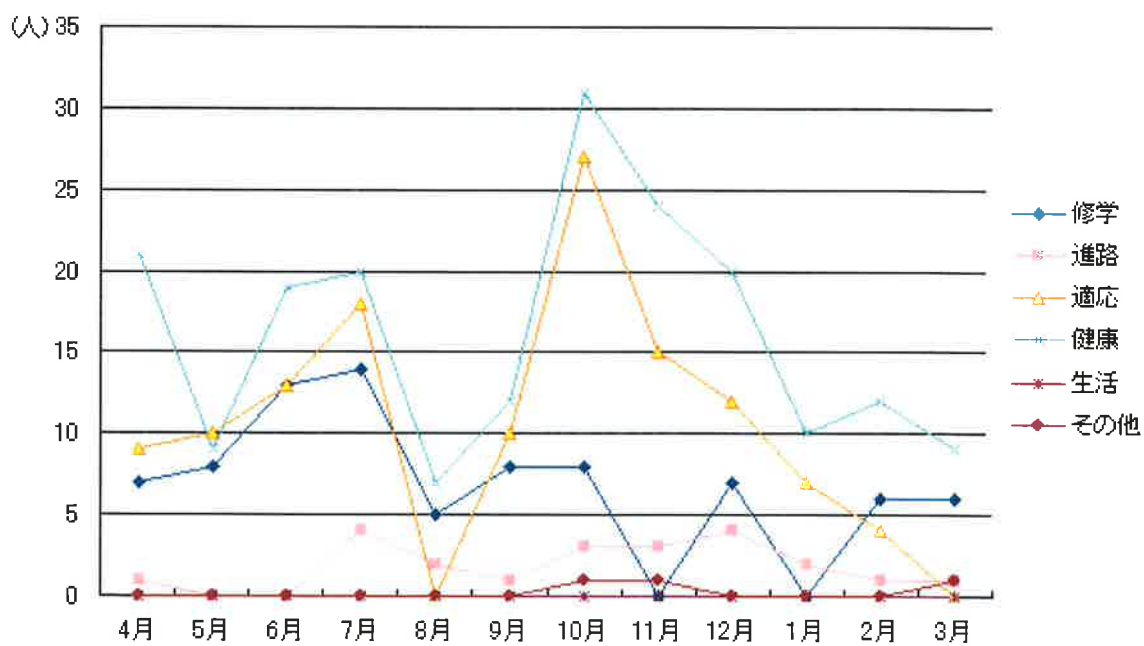


図2 月別主訴別来談者状況

(田中陽子・飯干紀代子)

Ⅲ 保健室の利用状況と今後の課題

1. 保健室の利用状況（表3）

平成20年度の保健室利用者総数は871名(学部生816名、教職員44名、その他11名)で、昨年度に比べるとやや増加傾向であった。

学部別の利用状況では、各学部とも内科症状での利用が6割以上を占めており、特に薬学部、保健科学部では女子の内科症状での利用が多かった。

月別の利用状況では、内科症状は5月～7月ならびに10月～1月の利用が多かった。特に、1月の利用者数は人数は比較的少ないが、昨年度同月の倍以上に利用者数が増加していた。

外科症状は5～7月ならびに10月～11月の利用が多かった。

2. 今後の課題

昨年と同様に内科症状での利用者が多かった。月別の利用状況をみると、新学期開始等の環境の変化や試験期間等での生活習慣の乱れなどが体調に影響を及ぼしていると思われる。また、心の問題が原因で身体症状を訴えることもあるため、心身の健康状態を把握し、必要時は学生相談室との連携を行うなどの対応をしていく必要がある。

外科症状では通学途中の交通事故やバイク、自転車の転倒などの原因が多く、これに対しては、引き続き学生課との連携を図りながら対応していき、交通安全についての指導を行っていく必要がある。

表3 月別学部別来談状況

社会福祉学部

| 月 | 内科症状 | | 外科症状 | | 合計 |
|-----|------|----|------|----|-----|
| | 男 | 女 | 男 | 女 | |
| 4月 | 7 | 2 | 1 | 0 | 10 |
| 5月 | 5 | 10 | 10 | 2 | 27 |
| 6月 | 8 | 9 | 7 | 3 | 27 |
| 7月 | 6 | 6 | 13 | 7 | 32 |
| 8月 | 5 | 1 | 0 | 0 | 6 |
| 9月 | 9 | 0 | 0 | 5 | 14 |
| 10月 | 8 | 9 | 9 | 4 | 30 |
| 11月 | 7 | 11 | 3 | 8 | 29 |
| 12月 | 9 | 5 | 2 | 1 | 17 |
| 1月 | 9 | 8 | 0 | 4 | 21 |
| 2月 | 0 | 2 | 1 | 0 | 3 |
| 3月 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 合計 | 73 | 63 | 46 | 34 | 216 |

薬学部

| 月 | 内科症状 | | 外科症状 | | 合計 |
|-----|------|-----|------|----|-----|
| | 男 | 女 | 男 | 女 | |
| 4月 | 1 | 7 | 2 | 1 | 11 |
| 5月 | 4 | 10 | 3 | 8 | 25 |
| 6月 | 3 | 18 | 3 | 3 | 27 |
| 7月 | 7 | 8 | 9 | 7 | 31 |
| 8月 | 3 | 1 | 3 | 1 | 8 |
| 9月 | 3 | 6 | 1 | 5 | 15 |
| 10月 | 8 | 22 | 7 | 6 | 43 |
| 11月 | 6 | 20 | 3 | 4 | 33 |
| 12月 | 7 | 7 | 1 | 5 | 20 |
| 1月 | 0 | 11 | 0 | 2 | 13 |
| 2月 | 1 | 3 | 0 | 1 | 5 |
| 3月 | 0 | 1 | 1 | 0 | 2 |
| 合計 | 43 | 114 | 33 | 43 | 233 |

保健科学部

| 月 | 内科症状 | | 外科症状 | | 合計 |
|-----|------|-----|------|----|-----|
| | 男 | 女 | 男 | 女 | |
| 4月 | 7 | 13 | 1 | 5 | 26 |
| 5月 | 14 | 26 | 1 | 8 | 49 |
| 6月 | 7 | 24 | 4 | 10 | 45 |
| 7月 | 15 | 31 | 5 | 12 | 63 |
| 8月 | 3 | 3 | 2 | 1 | 9 |
| 9月 | 4 | 9 | 2 | 4 | 19 |
| 10月 | 15 | 18 | 4 | 12 | 49 |
| 11月 | 15 | 21 | 4 | 8 | 48 |
| 12月 | 2 | 14 | 2 | 3 | 21 |
| 1月 | 5 | 18 | 1 | 0 | 24 |
| 2月 | 5 | 5 | 0 | 0 | 10 |
| 3月 | 1 | 3 | 0 | 0 | 4 |
| 合計 | 93 | 185 | 26 | 63 | 367 |

教職員

| 月 | 内科症状 | | 外科症状 | | 合計 |
|-----|------|----|------|---|----|
| | 男 | 女 | 男 | 女 | |
| 4月 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 5月 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 6月 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 7月 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 8月 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 9月 | 3 | 0 | 1 | 0 | 4 |
| 10月 | 4 | 2 | 1 | 0 | 7 |
| 11月 | 6 | 1 | 2 | 0 | 9 |
| 12月 | 7 | 1 | 1 | 0 | 9 |
| 1月 | 0 | 5 | 0 | 0 | 5 |
| 2月 | 6 | 0 | 0 | 0 | 6 |
| 3月 | 3 | 1 | 0 | 0 | 4 |
| 合計 | 29 | 10 | 5 | 0 | 44 |

その他

| 月 | 内科症状 | | 外科症状 | | 合計 |
|-----|------|---|------|---|----|
| | 男 | 女 | 男 | 女 | |
| 4月 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 5月 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 6月 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 7月 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 8月 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 |
| 9月 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 10月 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 |
| 11月 | 0 | 0 | 0 | 2 | 2 |
| 12月 | 2 | 1 | 0 | 0 | 3 |
| 1月 | 0 | 4 | 0 | 0 | 4 |
| 2月 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 3月 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 合計 | 2 | 7 | 0 | 2 | 11 |

総計

| 月 | 内科症状 | | 外科症状 | | 合計 |
|-----|------|-----|------|-----|-----|
| | 男 | 女 | 男 | 女 | |
| 4月 | 15 | 22 | 4 | 6 | 47 |
| 5月 | 23 | 46 | 14 | 18 | 101 |
| 6月 | 18 | 51 | 14 | 16 | 99 |
| 7月 | 28 | 45 | 27 | 26 | 126 |
| 8月 | 11 | 6 | 5 | 2 | 24 |
| 9月 | 19 | 15 | 4 | 14 | 52 |
| 10月 | 35 | 52 | 21 | 22 | 130 |
| 11月 | 34 | 53 | 12 | 22 | 121 |
| 12月 | 27 | 28 | 6 | 9 | 70 |
| 1月 | 14 | 46 | 1 | 6 | 67 |
| 2月 | 12 | 10 | 1 | 1 | 24 |
| 3月 | 4 | 5 | 1 | 0 | 10 |
| 合計 | 240 | 379 | 110 | 142 | 871 |

(下田 典子)

IV 学術発表と今後の研究の方向性

本学健康管理センターでは、日常の相談業務に加えて、精神的健康に関連する調査研究を行い、毎年 10 月に行われる全国大学保健管理研究集会において研究発表を行っている。過去 3 年の研究発表内容は次のようなものである。

平成 18 年度は、「福祉系大学生における共依存と心理的健康」というタイトルで発表を行った。本研究では、共依存行動尺度を作成し、精神的健康との関連を検討した。共依存行動尺度に関しては一定の信頼性と妥当性が確認され、「自己犠牲」「未熟性」の 2 因子を抽出した。またうつ尺度である SDS との関連性を検討した結果、「未熟性」と「抑うつ傾向」に有意な正の相関が見られ、大学生に対する共依存教育の必要性が示唆された。

また、平成 19 年度の発表タイトルは、「大学生のクリティカルシンキングが精神的健康に及ぼす影響」であった。クリティカルシンキングとは論理的で偏りのない思考のことであり、我々の日常生活に影響を及ぼす思考である。本学の学生を対象に、クリティカルシンキング尺度と精神的健康度を測定する指標である GHQ を用いて、双方の関連性を検討した。その結果、クリティカルシンキングの「不偏性」と GHQ の「社会的障害」に負の相関が認められ、偏りのない思考や物事に対する客観的な判断が、大学生の社会的活動に影響を及ぼしていることが明らかにされた。このように過去の 2 年間はどうのような心理学的要因が大学生の精神的健康に影響を及ぼしているかに焦点を当てて調査を行ってきた。

ところで本学健康管理センターでは、学生相談室利用者の心理的健康度をより詳細に把握するために、平成 18 年度より、初回面接時における POMS の実施を開始した。POMS とは気分プロフィール検査であり、「不安・緊張」「抑うつ・落ち込み」「怒り・敵意」「活気」「疲労」「混乱」の 6 つの気分尺度を同時に測定することができる。平成 20 年度の学会では「POMS を用いた学生相談室利用者の実態把握」というテーマで過去 2 年分の POMS の調査結果を発表した。その結果、相談室利用者は一般の学生よりも「活気」以外のすべての項目において、有意に高い値を示し、活気は有意に低い値を示していた。また、一般学生の活気が平均を下回っており、このような大学生の心理的傾向は、無気力や心の病に繋がっていく可能性があると考えられ、相談業務においてはその辺を十分考慮して支援にあたる必要があることが示唆された。

平成 21 年度より、新規来談者に対して、POMS の実施に加え、過去の学校形態、適応状況や欠席状況を含めたアセスメントを開始した。現在の多様な教育環境や支援環境において、上記のことを把握しておくことは、心理面の問題解決だけでなく、休退学の未然の予防につながると考えられる。今年度は新規のサンプル数に限りがあり、学会発表を見送ったが、今後データのサンプル数を増やし、来談者の実態とその対策について分析・検討し学会で発表していく予定である。

最後に、多様な学生のニーズに対応するため、学生相談活動では日常の相談業務だけでなく、様々な調査研究活動を行うことが求められている。本学健康管理センターにおいても、いくつかのテーマを決めて研究活動を行っている。この研究活動は年々充実したものになっており、今後も研究活動を継続させて現場の相談活動に役立てていく必要があると思われる。

表4 学会発表

| 年度 | タイトル | 内容 |
|--------|-----------------------------|---|
| 平成18年度 | 祉系大学生における共依存と心理的健 | 「未熟性」と「抑うつ傾向」に有意な正の相関が見られ、大学生に対する共依存教育の必要性が示唆された。 |
| 平成19年度 | 大学生のクリティカルシンキングが精神的健康に及ぼす影響 | 偏りのない思考や物事に対する客観的な判断が、大学生の社会的活動に影響を及ぼしていることが明らかにされた |
| 平成20年度 | POMSを用いた学生相談利用者の実態把握 | 相談室利用者は一般の学生よりも「活気」以外のすべての項目において、有意に高い値を示し、また活気は有意に低い値を示した。 |

(前田 直樹)

V 付 録

1 高梁学園 新型インフルエンザ対応マニュアル

薬学部 佐藤 圭創 教授

2 AED設置場所地図

学生課 黒川 真舟

学校法人高梁学園

新型インフルエンザ（H1N1）発生時対応マニュアル

（当該マニュアルは、必要に応じ順次改定する。）

序

インフルエンザは、高齢者や小児、妊婦、代謝異常、免疫機能の異常な場合などのハイリスク患者では、重篤化しやすく、脳症、多臓器不全、急性呼吸促迫症候群などにより死亡する場合があります。2009年春より、ブタ由来の新型インフルエンザ（swine-origin influenza A (H1N1) virus (S-OIV)）の流行が確認されパンデミックレベル6がWHOにより提唱されており、感染も世界各地で継続している。このブタ由来の新型インフルエンザに対しては、免疫を有していない人が多く、今後、症例数の増加が懸念されており、症例数が多くなれば重症化して死亡するケースも増えると考えられる。このため、高梁学園においては、新型インフルエンザ（H1N1）発生時対応マニュアルを作成し、学生・職員に周知徹底させることで、感染拡大・重症化抑制において、その社会的責務を果たす必要がある。

※現在、日本国内でのインフルエンザ蔓延状況に伴い、新型インフルエンザの確認検査はほとんど行われていません。したがって、A型インフルエンザと診断された場合は新型インフルエンザとして扱います。

新型インフルエンザを疑わせる症状：

38度以上の発熱・悪寒の急激な発症で、
関節/筋肉痛、倦怠感/疲労感、頭痛の全身症状が強く
加えて、咳/鼻汁/くしゃみ、のどの炎症がある場合
注意) 咳/鼻汁/くしゃみ、のどの炎症は、他の症状に遅れて出現することも多い

チェックリスト

- 急激な発症
- 38度以上の発熱・悪寒
- 関節/筋肉痛
- 倦怠感/疲労感
- 頭痛
- 咳/鼻汁/くしゃみ
- のどの炎症

1. 学生がA型インフルエンザに感染した場合（疑いを含む）

- (1) 学外において、インフルエンザ様の症状がある者は、医療機関を受診する。
- (2) 学内において、インフルエンザ様の症状がある者は、各設置校の連絡先へ連絡し、医療機関を受診する。
- (3) 医療機関を受診する場合は、あらかじめ当該医療施設に電話連絡して受診し、結果を各設置校の連絡先へ連絡する。

各設置校連絡先：

法人本部 総務部： 電話 0866-22-8915（内線 1152）
Fax 0866-22-9597（内線 1160）

吉備国際大学スチューデントサポートセンター学生課：

電話 0866-22-7466（内線 1304）
Fax 0866-22-8133（内線 1314）

順正短期大学スチューデントサポートセンター：

電話 0866-22-8380（内線 2208）
Fax 0866-22-0988（内線 2214）

順正高等看護専門学校事務室：

電話 0866-22-8065（内線 3102）
Fax 0866-22-0566（内線 3104）

九州保健福祉大学健康管理センター：

電話 0982-23-5580（内線 9010）
Fax 0982-23-5579（内線 9011）

九州保健福祉大学総合医療専門学校事務室：電話 0985-29-5306（内線 7103）
Fax 0985-29-5755（内線 7107）

- (4) (1)(2)で、A型インフルエンザと診断された場合は、以下の説明に従う。

本人への説明

- 登校禁止（自宅待機）
- 医療機関から処方された薬剤（タミフル・リレンザ）は、確実に最後まで服用する（耐性防止のために、臨床症状が改善しても途中でやめてはならない）。
- 自宅待機期間（a もしくはb）
 - a. 解熱後2日を経過かつ抗インフルエンザ薬（タミフル、リレンザ）服用終了していること
 - b. 発熱や咳、のどの痛みなどの症状のはじまった日の翌日から7日間以上経過していること
- 登校禁止（自宅待機）の解除を、各設置校の連絡先に確認する。
- 自宅待機期間中は、可能な限り自宅で安静を保ち、感染拡大を引き起こさないよう努力する。
- 外出時・人と接触時は、マスク（不織布）を着用する。

- 登校開始後、2日間は、手洗い・うがい・マスク（不織布）を着用する
- 欠席については、下記の「学園側対応」を参照する。

学園側対応

- インフルエンザに罹患した学生が、県の定める基準に達した場合、保健所へ届け、休講とする。休講の期間は4日程度とする。
 - 宮崎県の基準（平成21年10月13日現在）：同一学科・学部で2名以上かつ在籍者数の1割に達した場合
 - 岡山県の基準（平成21年10月13日現在）：在籍者数の1～2割に達した場合
- 欠席者の扱いについて
 - 吉備国際大学：医師の診断書があれば欠席の正当な事由とみなすが、診断書がなくても各設置校の連絡先担当部署の証明があれば欠席の正当な事由とみなす。
- 実習（学外）については、実習先の指示に従う。
- 学生の自宅療養における授業・実習・定期試験等については、学生の教育的不利益が生じないように配慮する。

2. 教職員がA型インフルエンザに感染した場合（疑いを含む）

教職員は、基本的には個々の責任で対応する。

対応については、（4）学生がA型インフルエンザに感染した場合（疑いを含む）に準ずる

休講など必要な場合は、すみやかに連絡し、学生に不利益が生じないようにする。

（A型インフルエンザ大流行時は、補講期間を別途定める等に対応する）

教職員がA型インフルエンザに感染した場合の連絡先：

各設置校の連絡先 [1-（3）参照]

3. A型インフルエンザと診断された患者との濃厚接触者への対応

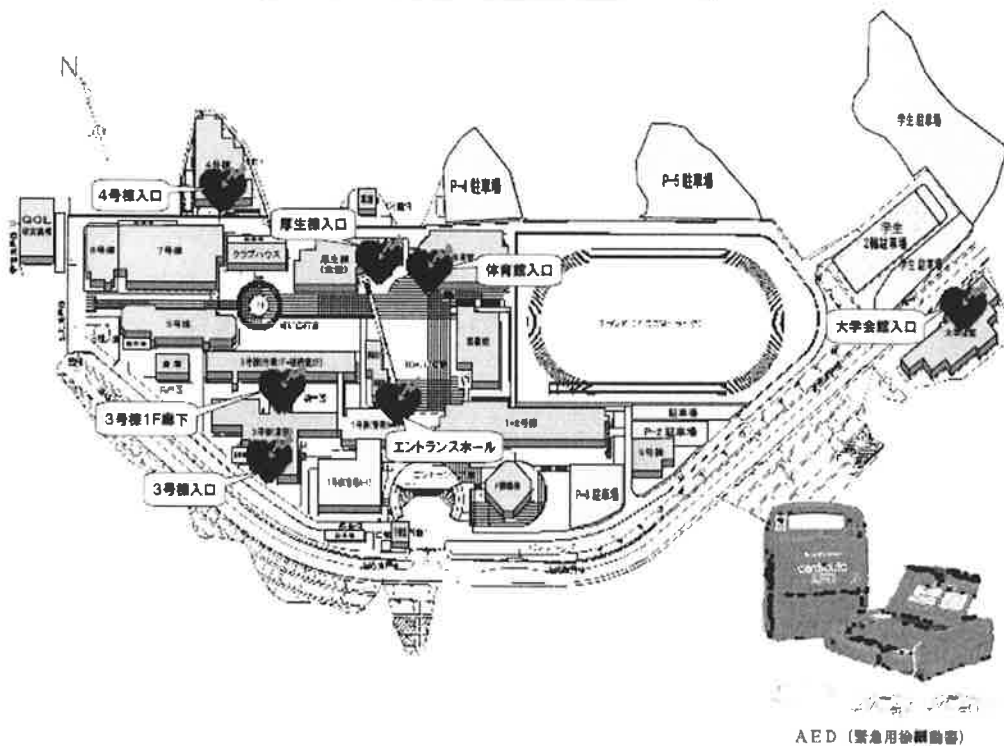
- 同居家族の発症、もしくは感染して発症している患者と2m以内で1時間以上の会話をを行ったものを濃厚接触者とする。
- 登校可（ただし、4日間、以下の項目を遵守する）
 - 発熱の有無などの健康チェックを毎日おこなう（各自）
 - 手洗い・うがいの励行
 - 必ずマスク（不織布）を着用する
 - 経過中に37.5度以上の発熱、筋肉痛・関節痛・咽頭痛・咳・痰のいずれかの症状がある場合は、医療機関を受診し、各設置校の連絡先へ連絡する。

4. その他の対応

大学・学生ともに可能な限りの感染拡大防止策を施行する。

- 感染者の発生したクラブは、顧問と相談のうえ通常の活動を自粛する。対応等に質問がある場合は、各設置校の連絡先担当部署に連絡し、対応について協議する。
- 消毒液を建物の入り口に設置する。
- 学生・職員に予防策を徹底するため、啓発用のパンフレットを作成・配布し、ポスターの学内掲示を行う。
- 学外者には受付などでパンフレットを配布し注意喚起を促す。
- 自宅療養上の注意事項。
 - ・ 水分を十分とって自宅で安静にし、外出はしない
 - ・ 療養期間は、発症した日の翌日から7日間又は解熱後2日間を経過し処方された薬剤の服用が終了するまで
 - ・ 大切な仕事や楽しみにしていた行事も、あきらめる選択を
 - ・ 患者の看護をしたあとなど、こまめな手洗いを
 - ・ 可能なら患者と家族は別の部屋に
 - ・ 患者と接するときには、マスクの着用を
 - ・ 患者の使用した食器類や衣類は、通常の洗濯・洗浄及び乾燥で大丈夫

AEDマップ



AED (緊急用自動体外起震器)

九州保健福祉大学

平成 20 年度 健康管理センター 活動報告書

平成 21 年 11 月発行

表紙・装丁 立石 恵子

発行者 九州保健福祉大学健康管理センター

〒882-8508 宮崎県延岡市吉野町 1714-1

TEL 0982-23-5555 (代表)

印刷所 有限会社クリップ

〒882-0861 宮崎県延岡市別府町 3160-2

TEL 0982-32-3203



九州保健福祉大学
平成 20 年度
健康管理センター 活動報告書